

vol. 2218

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館  
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

# 大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】佐伯印刷(株) 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



## 今号の掲載内容 (掲載順)

- 日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！  
- 大分高教組 第67次県教研開催
- 子どもたちに平和な未来を～護ろう憲法 子どもいのち～  
- 第66回日教組九州地区協議会「母と女性教職員の会」
- 第58回日教組九州地区女性教育労働者研究集会
- 日教組九協 現業交流集会に参加して

日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！

## 大分高教組 第67次県教研開催

とき：11月9日(土)、10日(日) ところ：大分鶴崎高校



今年度の県教研は大分鶴崎高校を会場として、県教組、高教組の組合員の参加で盛大に開催されました。

初日の全体会では、主催者を代表して大野真二高教組執行委員長が挨拶を行った後、佐藤寛人連合大会長、宮本勝明大分県平和運動センター副議長、尾島保彦大分県議会議員から祝辞をいただきました。

続いて、三上智恵さん(映画監督・ジャーナリスト)から「平和教育の問題点—沖縄の現場から—」と題した記念講演が行われました。

今年度は、1日目の午後に教科別、2日目に問題別分科会を開催し、各支部・分会、単組・専門部から持ち寄られたりポートをもとに、私たちの日頃の教育実践についての報告がなされ、活発な討論が繰り広げられました。

講師の三上智恵さん

## 教科・問題別分科会

### 第1分科会 // 日本語教育

| レポートタイトル                       | リポーター名 | 分会名       |
|--------------------------------|--------|-----------|
| 小論文指導、こうなりました。                 | 新川 恭慈  | 由 布       |
| 夜のチーズハンバーグ                     | 福田晃一郎  | 日 田 定 時 制 |
| 生徒が主体的・協働的に学ぶ授業の実践             | 遠山 里織  | 日 田 三 隈   |
| 「図書館を利用した授業について一緒に協議しませんか(仮題)」 | 浅倉 薫   | 竹 田       |

#### 「楽しみながら学べるワークシートに感嘆の声」 浅倉 薫 (竹田分会)

新川さん(由布)による全国教研の還流報告の後、2本のレポートがありました。

1本めは、同じく新川さんによる「カ・ナ・ラず書けるよ!小論文!!」でした。苦手な子どもも多い小論文を、「カ」=Cut、「ナ」=Knowledge、「ラ」=Writeの3つの要素に分けてわかりやすく指導するという内容でした。特に、国語科教員が指導の難しさを感じる「Cut力(話題を様々な角度から切る力)」については、子どもたちが楽しみながら学べるワークシートが披露され、参加者からは感嘆の声がもれました。

2本めは、浅倉(竹田)が「竹田高校73期生の『国語』あれこれ」をレポートしました。幅広い学力層の子どもたちと、古文や和歌を楽しむ1時間の授業を、ジグソー法を用いてつくったとりくみの報告でした。

全体のまとめでは、子どもたちが図書館に行きたくなる小さな工夫や、子どもの興味関心や実態に応じた授業づくり、新学習指導要領や共通テストによって今後の国語教育の方向性はどうかなど、和気あいあいとした雰囲気の中、活発な意見交換が行われました。

### 第2分科会 // 外国語教育

| レポートタイトル                   | リポーター名    | 分会名       |
|----------------------------|-----------|-----------|
| 教職3年目の気づき～理想と現実～           | 長岡二葉・中尾幸生 | 別 府 翔 青   |
| 英語の勉強法                     | 高橋 憲一     | 大 分 雄 城 台 |
| 「アクティブ」な英語授業のために           | 木村 辰郎     | 日 田 三 隈   |
| 英語教育における図書館の利用授業を一緒に話しましょう | 後藤 昌幸     | 竹 田       |

#### 勉強することの楽しさ、幸せ、意義を伝えたい 高橋 憲一 (大分雄城台分会)

教諭に加え、退職者、講師の方々と交えて有意義な時間が過ごせました。教師3年目の理想と現実を赤裸々につづった報告に、参加者は自分自身の姿と重ねながら共感したり、助言したり…。私もまた報告者にその後、連絡を取り、分科会では伝えられなかったことを文章や資料にして送りました。人権教育に携わる中で先輩から教わった言葉、「教師は生徒にとって最大の教育条件」という言葉を改めて胸に刻む機会となりました。ごく一部の子どもを除いて、実は大多数の子どもたちが、英語がわからずに困っています。私たちはそんな子どもたちに寄り添い、勉強の方法を教え、「わからないことがわかるようになる喜び」を共有したいものです。手段や手法もちろん大切ですが、「勉強することの楽しさ、幸せ、意義」を伝えられる教師でありたいものです。

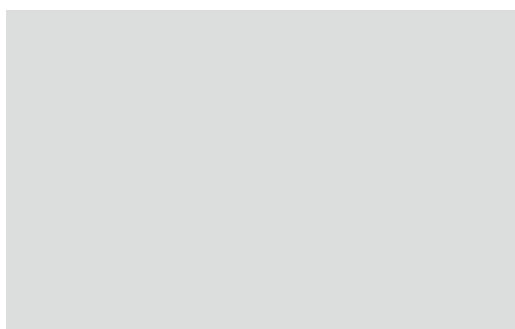
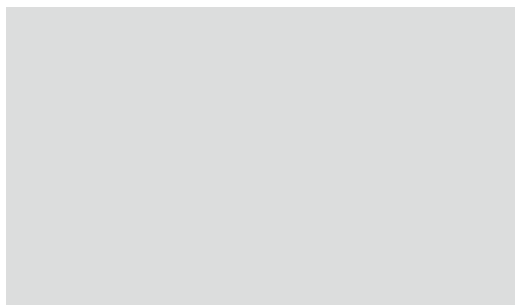
### 第3分科会 // 社会科教育

| レポートタイトル             | リポーター名 | 分会名     |
|----------------------|--------|---------|
| 転移可能な解釈を意識した世界史授業実践  | 西 裕一郎  | 大 分 豊 府 |
| 歴史的思考力を高める教材開発       | 安部 統己  | 日 田 林 工 |
| 世界史授業のファクトチェック～最後の授業 | 佐藤 邦彦  | 臼 杵     |

#### 「意欲的・主体的に学習する社会科教育のあり方」 佐藤 邦彦 (臼杵分会)

3本のレポートが報告された。世界史についてのものが3本でした。

1本めはファクトチェックをキーワードにして、授業内容を考える授業の実践報告でした。物語のもつすばらしさと同時に危険性についてふれていました。2本めは科学的社会認識の育成の実践でした。3本めはグローバル・ヒストリーの概



念を実践に活かす試みでした。

最後は、意欲的・主体的な学習のための意見交換をしました。10人の参加を得て盛会だったと思います。

## 第4分科会 // 数学教育

| レポートタイトル                | リポーター名 | 分会名     |
|-------------------------|--------|---------|
| 大学入試と図形パズルとその他          | 沼田 庄司  | 中 津 東   |
| 簡単に作問するための研究            | 宮崎 浩幸  | 大 分 舞 鶴 |
| 基礎学力の定着に向けた指導法について      | 豊原 早苗  | 玖 珠 美 山 |
| 気づき、考え、根拠を述べる習慣づくりの為の授業 | 後藤 淳二  | 日 田 三 隈 |
| 三重総合高校版 学び直し            | 田代 修三  | 三 重 総 合 |



### 「多数決に代わる論理を提案」

竹本 悠人 (大分上野丘分会)

最初にベネッセのマナトレを利用した指導法についての発表が2つありました。玖珠美山では、基礎学力の定着を目標に授業の中でノルマ達成に向けて繰り返し学習を重ねることで、計算力の向上や解ける喜びを知ることができたようです。また、基礎力診断テストの結果もとりにくみ始めた当初よりも回を重ねるごとに伸びていきました。三重総合では、新しいシステム「MARCH」を構築し、朝学習の時間を利用して、全ての子どもの学びなおしの機会を充実させているようです。振り返りのアンケートにおいての結果からも、肯定の声が多くあがっているようです。後半の2つは、大学入試問題の出題背景を考察し、研究を重ねたレポート発表でした。コンピュータやアプリも駆使した内容となっていました。最後の発表であった多数決についての考察は、多数決に代わる論理「シェアの原理」についての提案がなされました。

## 第5分科会 // 理科教育

| レポートタイトル              | リポーター名 | 分会名     |
|-----------------------|--------|---------|
| 合教科的授業とゲストティーチャー活動    | 堀田 秀俊  | 安 心 院   |
| 授業改善の取り組みについて         | 藪亀 尋子  | 宇 佐     |
| 学習が苦手な生徒の指導を真剣にやってみた! | 田中 秀昭  | 別 府 翔 青 |
| いつでもどこでも物理授業ができる工夫の研究 | 門脇 秀文  | 大 分 舞 鶴 |
| グループ学習の実践と評価          | 小野 紀昭  | 由 布     |
| 科学史と基本法則              | 長尾 秀之  | 日 田 林 工 |
| 学校毒劇物取扱マニュアルについて      | 小川 真紀  | 日 田 三 隈 |



### 「興味・関心を深める授業の工夫」

沢田 康子 (津久見分会)

運営委員6人、一般参加11人、合計17人と、例年以上に参加者が多く、すべての科目の教員がそろいました。全部で7本のレポートについて、活発な質問や意見が飛び交い、考えを深めることができました。実習教諭部からのレポートもあり、それぞれの立場からの発言があり、とても意味深い分科会となりました。また、手作りの実験器具も紹介され、とても参考になりました。

## 第6分科会 // 芸術教育

| レポートタイトル       | リポーター名 | 分会名   |
|----------------|--------|-------|
| 音のデザインを取り入れる試み | 稲田 雅史  | 大 分 東 |

### 「音のデザイン」

大林 幸誉 (大分豊府分会)

“音のデザインを取り入れた授業実践”をテーマに発表・議論が行われました。“音のデザイン”というものがいかに社会や日常生活と関りがあるか、教育課程上どのような位置づけにあるか、また、授業の中でどのように効果的な言語活動を行うかについて協議が行われました。

レポート発表後には、子どもが実際に行っている印象評定実験をしたり、日頃の困りを共有したりと大変有意義な時間を過ごすことができました。

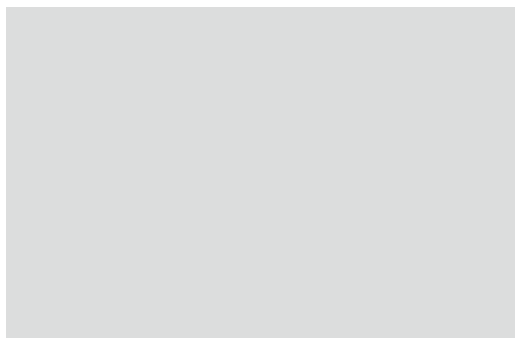


**第10分科会 // 職業教育**

| レポートタイトル                       | リポーター名 | 分会名    |
|--------------------------------|--------|--------|
| 「工業技術の力で地域貢献～教科「課題研究」で地域とつながる」 | 佐藤新太郎  | 宇佐産業科学 |

**子どもが自発的にとりくむためには  
渡邊 孝輝 (鶴崎工業分会)**

討議の柱のうち、①職業教育及び職業高校の抱える課題、②子どもの就労（進路）意識を育む実践についての2つについて議論を行いました。職業高校の抱える課題として、課題研究等に子どもが自発的にとりくむための方策や、各種協議会への参加子どもの指導方法等、各校が抱える問題点について話し合いました。子どもの就労意識については、現在のような売り手市場の状況の中で就職について子どもが安易に考えている点や、就職先企業とのマッチングをどうすればいいのかについて討議を行いました。

**第11分科会 // 自治的諸活動と生活指導**

| レポートタイトル                | リポーター名 | 分会名     |
|-------------------------|--------|---------|
| 教育とは何か～あるべき教育の姿を求めて～    | 時枝 武敏  | 由 布     |
| 主催者教育推進計画について           | 山田 憲昭  | 日 田 三 隈 |
| 教育相談＋特別支援教育～SC・SSWとの連携～ | 萩原 明子  | 佐 伯 豊 南 |

**子どもに 生き生きと 生きるための力を！  
萩原 明子 (佐伯豊南分会)**

リポーター・運営委員4人、一般参加2人と少人数でしたが、じっくりと話をすることができました。萩原（佐伯豊南）の報告では、教育相談と特別支援教育を連携し、SCとSSWの専門性を活かしながら、不登校など課題を抱える子どものサポートをチームで行う大切さが語られました。山田さん（日田三隈）は、地歴・公民科が中心となって「主催者教育推進計画」を策定し、学校全体でHRA・教科・分掌でとりくんでいる報告をしました。時枝さん（由布）は、担任は子どもにしっかり向き合い、学年主任は担任をサポートし、子どもと職員との信頼関係がベースになって初めてうまくすすむことを述べました。子どもがそれぞれの人生を生き生きと生きていくための力をつけさせることが学校の果たす役割だと、改めて考えさせられた分科会となりました。

**第13分科会 // 人権教育****第18分科会 // 平和教育**

| レポートタイトル                               | リポーター名           | 分会名     |
|--|------------------|---------|
| 学校の内外をつなぐネットワークを図解する<br>～人権学習への応用を中心に～ | 糸永 伸哉            | 宇 佐 支 援 |
| 高校生1万人署名活動のこれから                        | 佐藤 立也            | 日 出 総 合 |
| 本校の平和学習のとりくみ                           | 坪田 健二<br>(古岡耕一郎) | 大 分 商 業 |
| 「生徒が主体的に取り組む人権・平和学習」を目指して              | 杉田 義一            | 情 報 科 学 |
| HPV子宮頸癌ワクチン被害訴訟支援、その後                  | 山崎 兼雄            | 佐 伯 支 援 |

**人権教育と平和教育は高教組の柱  
山崎 兼雄 (佐伯支援分会)**

佐藤新太郎さん（宇佐産業科学）の全国教研還流報告では、共同研究者が「宇佐の柳ヶ浦や掩体壕に子どもの頃行ったことがある」と言っていたとのことからもわかるように、幼少年期の体験が大切だという話でした。坪田さんの大商での教師向けの資料を作った上で行われた平和教育の報告は今年のヒントにもなりました。杉田さんの子どものフィールドワークを基にした子どもが発表する形の平和学習も、主体的な学びをめざす上で非常に参考になりました。佐藤立也さんの「高校生一万人署名」のとりくみは、高教組を窓口として是非全県に広めてほしいと思いました。



人権教育と平和教育は高教組の柱と言える分科会が、今回合体せざるを得なくなったのは残念としか言いようがありません。ただ、時枝さんの全国教研還流報告(人権教育)で、全国教研では、まだ0泊4日だという話を聞いて少し安心しました。

## 第14分科会 // 障害児教育

| レポートタイトル  | リポーター名         | 分会名      |
|---|----------------|----------|
| 寄り添って歩く<br>～別府支援学校・病弱課程の苦悩と成長の記録～                   | 山村 陽介          | 別府支援     |
| 肢体不自由教育、病弱教育併設校における合同授業の成果と課題                       | 別府支援分会         | 別府支援     |
| 卒業後の生活を見据えた専門的、継続的な支援、指導のために<br>～寄宿舍個別の指導計画の作成について～ | 後藤佳世子<br>大野 祥子 | 別府支援     |
| 石垣原校の遠隔授業について                                       | 田畑 幸子          | 別府支援石垣原校 |
| 就労へとつなぐ具体的なとりくみについて                                 | 古川公一郎          | 南石垣支援    |
| 新生支援学校のICTを活用した授業実践報告                               | 堀田 文雄          | 新生支援     |
| 100均の素材で作ったパネルシアター                                  | 亀井 和浩          | 新生支援     |



### 和気あいあい、でも熱い想いがあふれた分科会

福田 真弓(大分支援分会)

障害児教育①は3本のレポートを、運営委員、一般参加者合わせて7人で討議しました。3本のうち2本が別府支援のものであり、また参加者も別府支援の方や前任校が別府支援の方ばかりだったので、和気あいあいとした雰囲気の中でも、より具体的で熱い想いを出し合う分科会となりました。独自にパネルシアターを製作された亀井さんのレポートには多くの方から参考になったとの感想が寄せられました。別府支援の2本のレポートには病弱の子どもが増えている本校の現状がとてもよく分かったレポートでした。3人のリポーターの方、ありがとうございました。

### 日頃の実践の様子が伝わる素晴らしい報告

末永 多香光(もう分会)

ICTに関する実践では、別府支援学校石垣原校による遠隔授業の実践と新生支援の日常実践のとりくみが報告されました。どちらも機器を使用する上で課題はありますが、子どもたちの生き生きとした姿がみられるので有意義であるとのことでした。南石垣支援からは、子どもの特性に応じて、在学中から一般就労に向けて、学校、就労予定先施設、家庭が連携していくことの重要性が報告されました。別府支援学校寄宿舍の実践では、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」と関連させる独自のとりくみ「個別の生徒指導計画」の実践が報告された。寄宿舍での実践を積極的に発信していくことの必要性やインクルーシブ教育システムの中での寄宿舍教育の役割の重要性が報告されました。どのレポートも日頃の実践の様子が伝わる素晴らしい報告でした。

## 第16分科会 // 両性の自立と平等をめざす教育

| レポートタイトル                  | リポーター名         | 分会名    |
|---------------------------|----------------|--------|
| 高校生の性の商品化を考える～全国両性研の報告から～ | 大坪 容子<br>小林 和枝 | 爽風館定時制 |
| 生徒総会での生徒の発言から(仮)          | 竹田分会           | 竹 田    |
| 制服を選択制に!                  | 手嶋 映実<br>仁木 史絵 | 竹田支援   |



### 新たな情報を得、気兼ねなく意見交換

手嶋 映実(竹田支援分会)

参加者8人、レポート2本、還流報告の分科会でした。私は「制服を選択制に!」というテーマで発表をしましたが、参加者の皆さんともやりとりをしながら楽しくすすめることができました。女子制服のストラックスを作ることができた経緯と、他県では「男子用」「女子用」とせず、共通のデザインから誰もが制服を自由に選べる学校があることを知ってもらうことができました。また、全国両性研の還流報告では「高校生の性の商品化を考える」ことの現状と被害者救済組織の存在を知り、被害にあった時に相談する力を持つ子どもにするにはどうすればよいかなど考えました。

新たな情報を得たり、気兼ねなく意見交換ができたりする、有意義な時間になりました。

**第19分科会 // 情報化社会と教育・文化活動**

| レポートタイトル               | リポーター名 | 分会名   |
|------------------------|--------|-------|
| 大分豊府高校のICTの取り組み        | 横大路武治  | 大分豊府  |
| 支援学校の図書館から             | 後藤 由美  | も う   |
| 「SDI新聞記事検索サービスいかがですか～」 | 志賀 祐子  | 三重 総合 |
| 探求学習と学校図書館の関わり         | 青木 美穂  | 佐伯 鶴城 |

**メディアリテラシーの現状と課題～各校の実践を踏まえて～  
阿野 卓也 (中津東分会)**

午前中は、ICTの活用を含めた実践校のレポートを聞きつつ、発見や課題を話し合いました。電子機器の導入が進む中で、現場のアンバランスさ（多量の配備と利用側の知識量の少なさ）や、探究活動についてのパスファインダー（＝調査・探究の際に利用するガイド）の重要性、司書がそこに主体的に関わる難しさについて意見が出ました。新聞を利用した新しい試みや、支援学校への学校司書配置後の劇的な変化にも大変刺激を受けたと思います。午後は、午前中の発表を受けてのメディアリテラシーの現状と課題について広く各々の持論を交換しました。

**第20分科会 // 選抜制度と進路保障****第21分科会 // カリキュラムづくりと評価・高校教育改革****第24分科会 // 総合学習**

| レポートタイトル                   | リポーター名 | 分会名  |
|----------------------------|--------|------|
| 高校入学を希望する人たち               | 中野 幸弘  | 中津北  |
| 社会変化と学校教育                  | 高橋顕一郎  | 臼 杵  |
| 「アクティブラーニング」についておしゃべりしましょう | 木村 辰郎  | 日田三隈 |
| SSHを通じた「探求」のとりくみ紹介         | 高木 匠   | 日 田  |

**全体を通して活発な意見**

植田 茂樹 (情報科学分会)

3つの分科会をまとめた発表・討議となりました。

まず、外国にルーツを持つ子どもの高校入試・転学について発表され、入試制度そして合理的配慮について討議されました。2本めはアクティブラーニングについての発表でした。教育改革が行われ「アクティブラーニング」を取り込むことが勧められているが、言葉に振り回されず、今までやってきたことをしっかりやっていくことが大切ではないかなど討議されました。3本めは「総合的な学習の時間」をSSHによる学校認定科目での置き換えについて、実施してみてもよかった点や課題、さらには「情報」教育の必要性についても話が出るなど、全体を通して活発な意見が出されました。

**第23分科会 // 教育条件整備の運動**

| レポートタイトル                   | リポーター名 | 分会名     |
|----------------------------|--------|---------|
| 学校司書の働き方と図書館教育の地域格差        | 深藏 剛   | 安心院     |
| アンケート結果から見えるもの             | 小野 寛史  | 大分東     |
| 石垣原校の遠隔授業について              | 原田 美樹  | 別府支援石垣原 |
| 学校での緊急時対応体制づくりのとりくみPart II | 佐藤 由美  | 日 田     |

**多職種の話ができました**

原田 美樹 (別府支援石垣原分会)

「学校現場の緊急時対応体制づくりのとりくみ」、「学校司書の働き方と図書館教育の地域格差」「教員採用試験対策を始めて、今感じていること」「学校事務の立場から今後のとりくみについて」「遠隔授業」など、養護教諭、学校司書、事務職員、特別支援教育や高校現場など、多職種の話ができました。ちがった立場でも、それぞれが教育について語り合えた時間となりました。一人職種なのでこの組合の話・語り合える時間が、また明日への力となり、心がつながり、あったかい気持ちになりました。

## 第25分科会 // 定時制・通信制・分校の教育

| レポートタイトル                    | リポーター名         | 分会名     |
|-----------------------------|----------------|---------|
| 夜のランパス                      | 横山新太郎          | 中津東定時制  |
| 「大分工業定時制に於ける各種活動のコンヴァージョンⅡ」 | 波多野恭行          | 大分工業定時制 |
| 「爽風館通信制ってこんな感じのところですよ。」     | 土佐路 修<br>幡司多加志 | 爽風館通信制  |
| ひたむきに、ひた走る、日田定              | 日田定分会          | 日田定時制   |
| 爽風館高校における「通級による指導」の取り組み     | 土谷 充章          | 爽風館定時制  |



### 定・通・分校に於ける様々な取り組みと意見交換 石田 靖弘 (爽風館定時制分会)

レポートは4つの分会からで、それぞれの学校の取り組みの発表でした。参加者は4名で少し淋しかったですが、活発な話がありました。

最初は大工定時制からの発表で、スライドを通して1年間の行事や活動が紹介されました。定時制独自の行事である生活体験発表や定通体育大会などの話を通して、爽風館高校と夜間定時制の違いを様々な点から深く話していきました。福田さん(日田定時制)は不在でしたが、朗読という形で発表して話を深めることができました。来年はもう少し人数が増えるといいなと思います。

## 第68次全国教研参加レポート、リポーター名

| 分科会名              | リポーター名 | 分会名          | タイトル                     |
|-------------------|--------|--------------|--------------------------|
| 外国語教育             | 木村 辰郎  | 日田三隈         | 「アクティブラーニング」を問い直す        |
| 職業教育              | 山田 憲昭  | 日田三隈         | 日田三隈高校の主権者教育推進計画について     |
| 平和教育              | 佐藤 立也  | 日出総合         | 「高校生1万人署名活動」大分でのとりくみを通して |
| メディア・リテラシー教育と文化活動 | 青木 美穂  | 佐伯鶴城         | 探究学習と学校図書館の関わり           |
| 教育条件整備の運動         | 田畑 幸子  | 別府支援<br>石垣原校 | 石垣原校の遠隔授業について            |



子どもたちに平和な未来を～護ろう憲法 子どものいのち～

## 第66回日教組九州地区協議会「母と女性教職員の会」

と き：10月26日(土)、27日(日) ところ：火の国ハイツ(阿蘇市)

第66回九協「母と女性教職員の会」は、九州各県から母親と女性教職員約140名が集い開催されました。

全体会では、「あなたにあえて よかった」と題し、シンガーソングライターう～みさんによる弾き語り公演がありました。一貫して命の大切さを訴え続けて来た彼女は、被災地を中心とした学校訪問により子どもたちに歌い、語りかけるなかで「死にたいと思ったことがある」という子どもたちの多さに驚いたと言います。能力主義、成果主義が社会を支配し、不安によってコントロールされた子どもたちや、自分自身の疲弊を自覚し、優しく包み込むような歌声にふれ、いのちを輝かせて生きることの大切さに気づかされました。

分散会では都留恵子（宇佐支援分会）さんが司会をつとめ、「わたしにとっての母女」（鹿児島）『かちちの』会を続けること（大分県）と、それぞれの地域からのレポートで、つながり続け、学び合い、平和を守ることの大切さと難しさを語り合いました。会場の若いお母さんが「SNSで発信しています」と発言し、新しい時代につながり方を提案されていたのが印象的でした。私たちは憲法によって集会の自由を保障されているからこそ、憲法を護る会を実施することができる、その根っこを狙われていることに抗う市民であることの誇りを互いに再確認し、分散会を終えました。

報告：和田 佐栄（女性部長・中津東分会）

## 第58回日教組九州地区女性教育労働者研究集会

と き：11月23日(土)、24日(日) ところ：佐賀県教育会館・千代田館（佐賀市）

1日目は、開会行事の後、東京弁護士会東京駿河台法律事務所の坪由美子弁護士を講師に迎え、基調講演「未来を担う大切な子どもたちのために～今こそとりもどそう 教職員の生活時間」が行われました。ご自身の働き方とも照らし合わせながら、生活時間確保の重要性を分かりやすく説いて下さいました。生活時間とは家事にかかる時間+休息時間のことで、その時間を十分にとれない現実を突きつけられ、労働環境の改善が急務だと痛感しました。

分科会は1日目から2日目に渡って実施されました。今回、私が司会として参加した第2分科会は、「女性政策と女性労働者」をテーマに活発な議論ができました。

レポート1つめは大分県教組女性部の専門部交渉のとりくみをまとめた「働きやすい職場にするために 私たちの声を届けよう」、人事異動ルール「概ね10年3地域」のために若い教職員の生活が破壊されている現状と、生活を守るための女性部専門部交渉状況の報告でした。参加者からも多くの声が上がリ、このルールは教職員の生活に関しても、学校運営に関しても弊害しかないことが伝わってきました。レポート2つめは福岡県教組の「『東京医科大学の女性入試に対する差別入試の問題性を問い、ジェンダー平等社会実現を求める要望書』提出のとりくみ」で、怒りを行動に起こした実践でした。当時、参議院議員だった神本美恵子さんの協力もあり、最終的に文科省まで声を直接届けることができたそうです。

普段、働いていて、女性だから大変だと感じることはありませんが、いろいろな人の話を聞くと、自分が気付かない差別や辛さを再確認することができます。無理なことは無理、ダメなことはダメと、共に声をあげる仲間の大切さを感じた二日間でした。

報告：安達 笑子（大分豊府分会）

## 日教組九協 現業交流集会に参加して

と き：11月23日(土)、24日(日) ところ：沖縄県教育福祉会館

九州学校現業交流集会は「各県現業の問題の共有と絆」をテーマに開催され、大分・熊本・沖縄の3県20人の参加がありました。

初日は、平和学習ということでフィールドワークをしました。バスを貸し切り、嘉数高台（普天間基地見学）⇒キャンプフォスター⇒ゲート前見学⇒道の駅かでな（嘉手納基地）と順に回りました。フィールドワークには沖縄高退教の下地輝明さんが同行してくださり、バスの中や現地でも沖縄の問題等を、資料を使いわかりやすく説明をして下さいました。移動中、窓の外に見えるのは、米軍基地のフェンスでした。米兵たちは、基地の中に沖縄があると思っていて、米兵は自由にどちらへも行けるが、県民は基地に入ることができず、不自由でかわいそうなのだそうです。また、沖縄県民と本土の人たちとの認識の違いもたくさんあるそうです。最近、政府が沖縄の米軍基地が一部返還された件でも、本土の方は好意的に思っているかもしれないが、その土地は道路の拡張に利用されており、本当の意味での返還にはなっていないそうです。環境が破壊され、生活が破壊され、人権が蔑ろにされているのが今の沖縄でした。しかし、下地さんは、「楽しく頑張らずに平和活動をしたい！それが継続につながる」と言われました。この言葉は、何に対しても言えると思いました。

次の日は、教育福祉会館において、日教組現業部長の梅木さんより中央情勢の報告と「会計年度任用職員制度」についての説明があり、各県の「会計年度任用職員制度」の進行状況の説明・質問の後、個々の抱える課題等について意見交換を行いました。予定時間をオーバーし、盛会のうちに終わりました。

今回この学習会を通して、沖縄の現状を外からではなく、多くのことを学ぶことができました。

報告：河野 雪江（由布支援分会・調理員）